

資料番号	4
------	---

令和 8 年 10 月 19 日
課 名 農林水産局農業生産課
担当者 課長 尾村
内 線 3 5 9 0

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

(2) 調査期間

令和 8 年 6 月～令和 8 年 9 月（※一部の品目については、令和 8 年 5 月～令和 8 年 8 月）

(3) 調査結果

ア 農産物

(7) 普通作物の生産状況

a 水稻

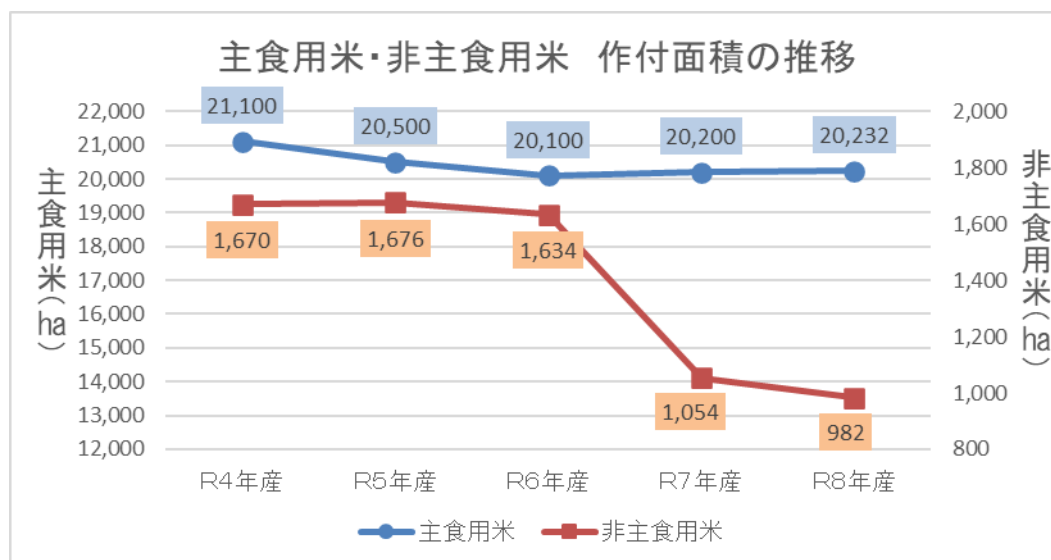
県内の主食用米の作付面積は、前年より 32ha 増加し、20,232ha と見込んでいる。

9 月末現在での生育はやや早く、早生品種を中心に収穫が進んだものの、降雨の影響により一部で収穫の遅れがみられ、主食用米の収穫率は約 6 割（平年約 7 割）となっている。

また、8 月末現在のうるち玄米の 1 等米比率は 73.2%と前年よりやや高くなっている。

収穫量については、6 月から 7 月上旬にかけての低温・日照不足の影響で、作況単収指数は 97 とやや少ないと見込まれる。

非主食用米の作付面積については、前年より 72ha 減少し、982ha と見込んでいる。



(イ) 野菜の生産状況

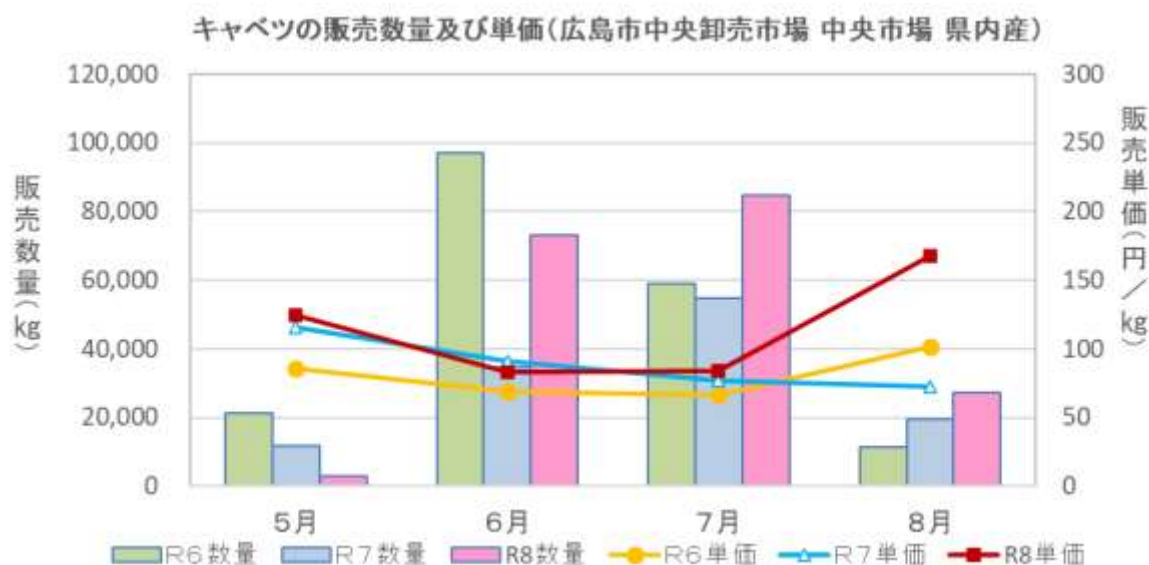
野菜全体：昨年同様夏の猛暑の影響で、県産野菜の販売数量は、5月～8月間で平年の1～2割程度減少した。販売単価は、1～3割程度の高い水準で推移した。

a キャベツ

主に庄原市や北広島町等の県北部で生産されたものが流通している。

販売数量は、5月は平年比25%であったものの6月以降回復し、平年比91～158%で推移した。

販売単価は他県産の不作の影響で、平年比107～197%で推移した。



b トマト

6月までは呉市等の県南部、7月からは神石高原町や庄原市、北広島町等、主に県北部で生産されたものが流通している。

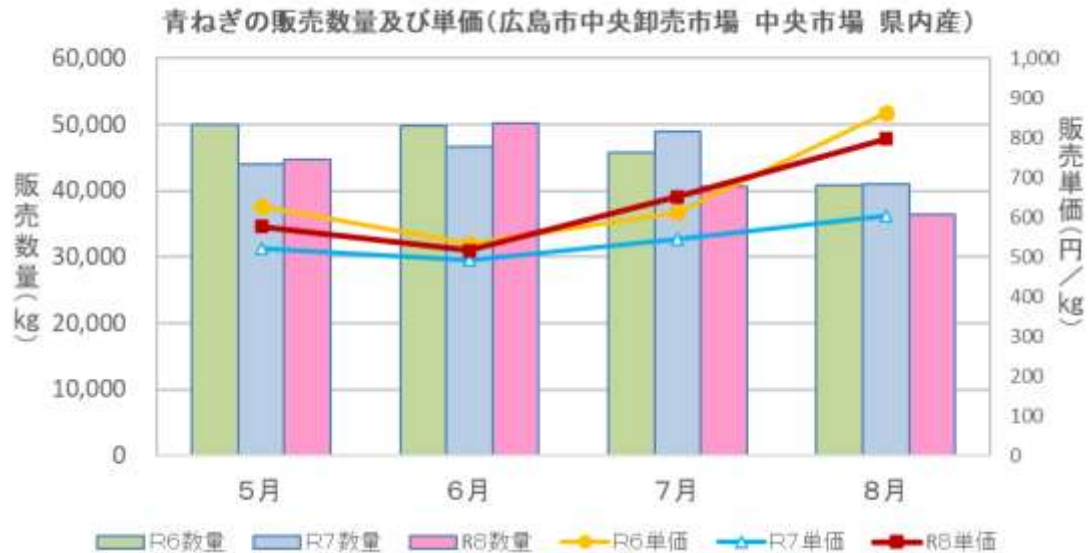
販売数量は平年比90～108%で、販売単価は平年比104～129%で推移した。



c 青ねぎ

安芸高田市の養液栽培や庄原市等の土耕栽培のものが流通している。

販売数量は平年比 90～108%で推移した。販売単価は、平年比 96～116%で推移した。



d ほうれんそう

主に庄原市や北広島町等の県北部で生産されたものが流通している。

販売数量は平年比 59～84%で推移した。販売単価は、平年比 108～112%で推移した。

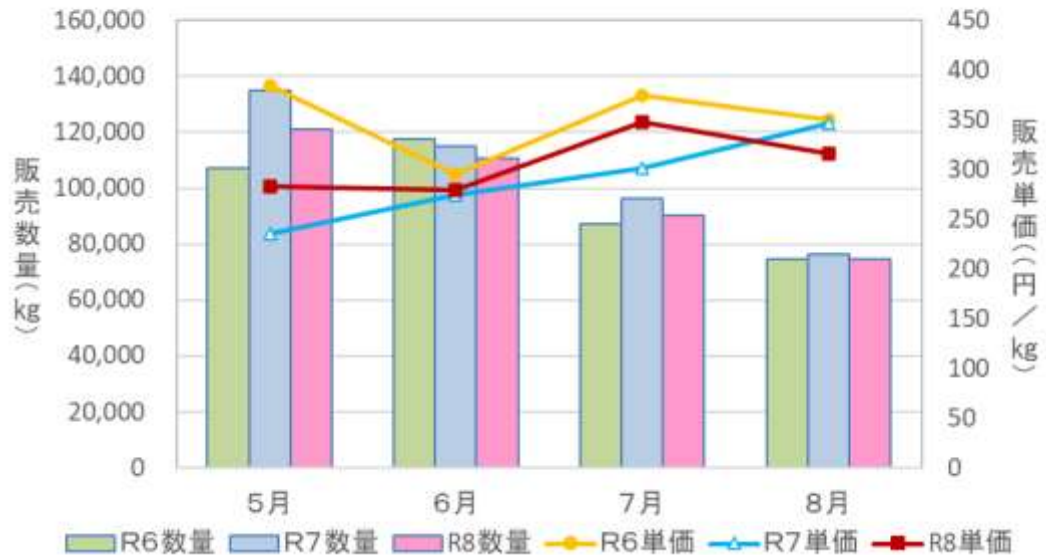


e こまつな

主に広島市、安芸太田町で生産されたものが流通している。

販売数量は平年比 98～113%で推移した。販売単価は、平年比 94～115%で推移した。

こまつなの販売数量及び単価(広島市中央卸売市場 中央市場 県内産)

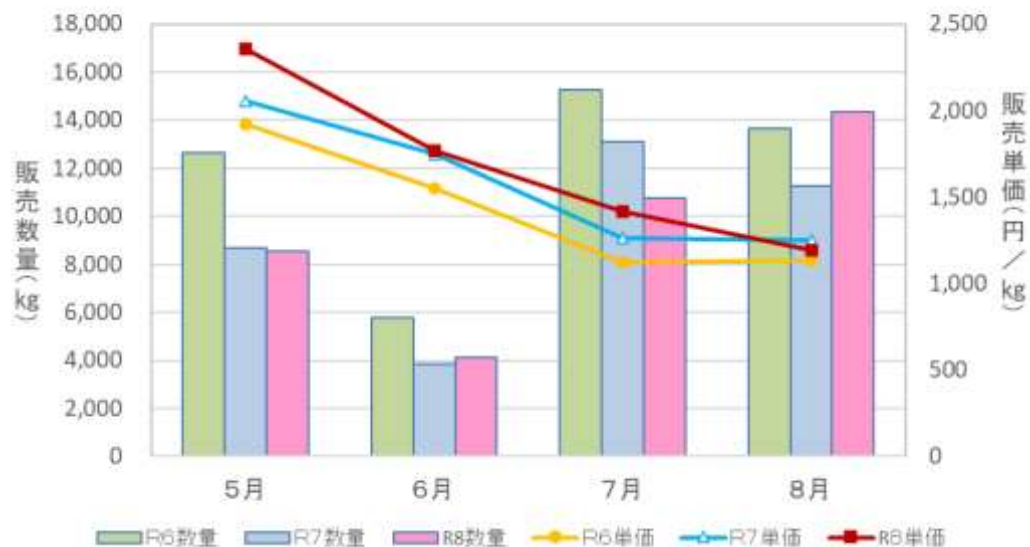


f アスパラガス

主に三次市や世羅町で生産されたものが流通している。

販売数量は、平年比 79～112%で推移した。販売単価は、平年比 114～131%の高い水準で推移した。

アスパラガスの販売数量及び単価(広島市中央卸売市場 中央市場 県内産)



(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん

極早生の出荷が10月6日から開始された。

販売数量は前年比82%の7,068 tと見込んでいる。

今年は裏年であり、8月までの干ばつにより小玉傾向であったが、9月以降降雨が続
き肥大が進んでいる。

b レモン

ハウスレモンは、6月下旬から出荷が開始された。

9月末までの販売数量は62 tとなった。

露地栽培のレモンは、10月6日から出荷が開始された。

本年産の販売数量は5,795 tと見込んでいる。



※「特産果樹生産動態等調査」（農林水産省）。

令和7年の栽培面積及び生産量はJA広島果実連（株）調べ（速報値）。

令和8年産の生産量はJA広島果実連（株）調べ（開花・発芽状況調査結果から推計）。

c ぶどう

ぶどう全体では、猛暑の影響で出荷が前進化したものの、販売数量は昨年並みで推移した。また、シャインマスカットの販売数量は前年より 14 t 増加し（+4%）、販売単価は前年より 129 円/kg 低下した（△8%）。

d なし

5 月の着果量は平年並みだが、干ばつによる小玉傾向とともに黒星病の発生があり、幸水・豊水ともに市場出荷に係る販売数量は前年より少なく推移している。

e いちじく

猛暑による障害果の発生があり、販売数量は前年より少なく、販売単価は前年より高く推移している。

f りんご

着果量は平年並み、生産量は昨年並みと見込んでいる。

広島県産落葉果樹の販売状況 （令和 8 年 9 月末までの累計 J A 広島果実連（株）扱い）

品目（品種）	販売数量			販売単価		
	t	前年比 (%)	前々年比 (%)	円/kg	前年比 (%)	前々年比 (%)
ぶどう（ピオーネ）	566	100	100	1,541	99	98
ぶどう（シャインマスカット）	349	104	113	1,623	93	84
なし（幸水）	82	37	80	513	103	94
なし（豊水）	193	55	73	498	104	94
いちじく（蓬莱柿）	99	77	78	1193	122	104

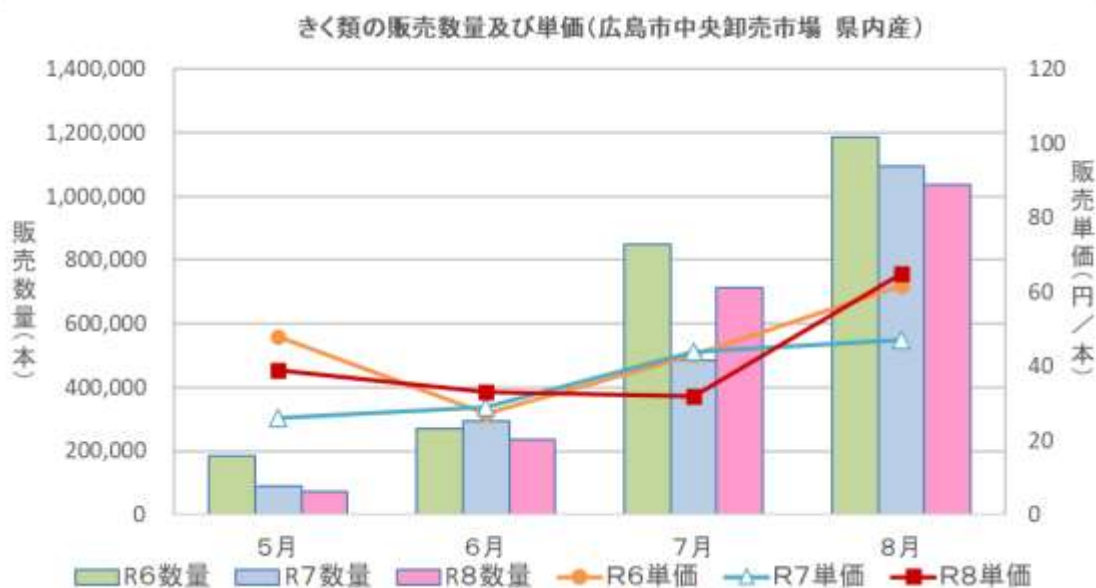
(I) 花きの生産状況

切花全般においては、昨年同様、数量減・単価安の状況が続いている。物価上昇の影響で、嗜好品である花きの購入を控える傾向にあることが要因とされている。

a きく

主に庄原市（東城町、西城町）、三次市、江田島市等から出荷されている。

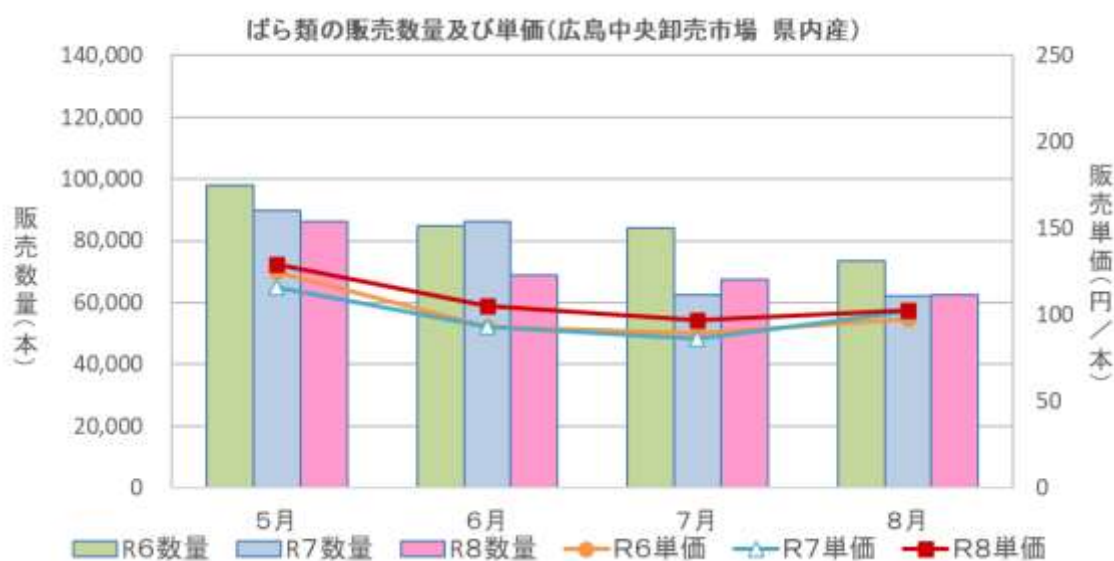
販売数量は、5月は平年比 31%、6月～8月は 68～107%で推移した。販売単価は、7月は平年比 72%であったもののそれ以外は平年比 101～122%で推移した。



b ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市等から出荷されている。

販売数量は平年比 71～84%で推移した。販売単価は平年比 105～112%で推移した。

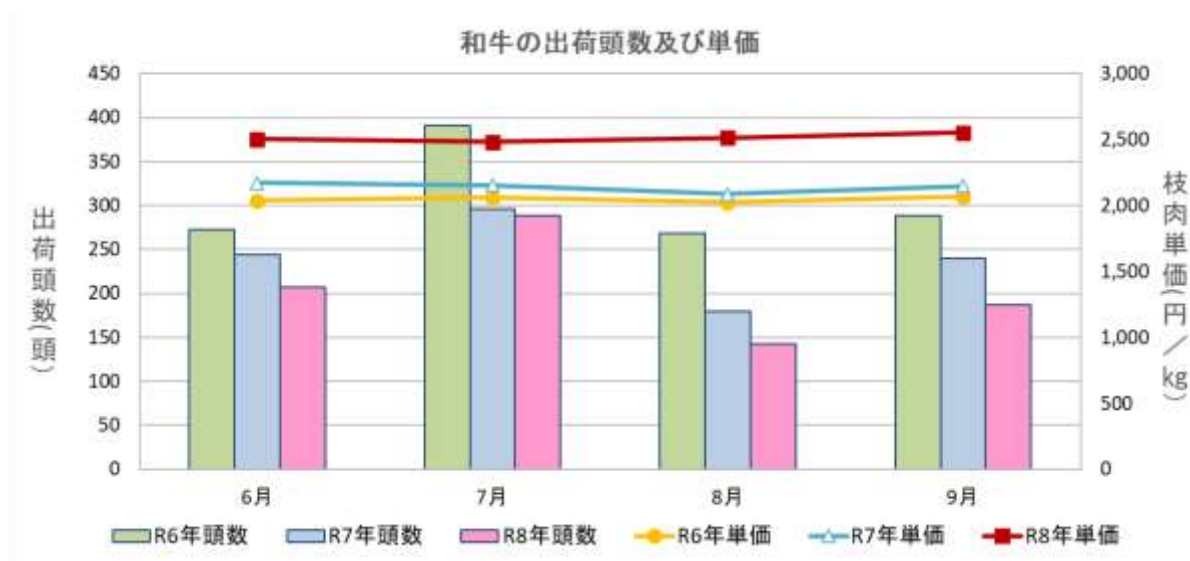


イ 畜産物

(7) 和牛

出荷頭数は、前年を下回って推移している（前年比 78～97%）。

枝肉単価は、出荷頭数が少ない影響により、前年を大きく上回って推移している（前年比 119～121%）。



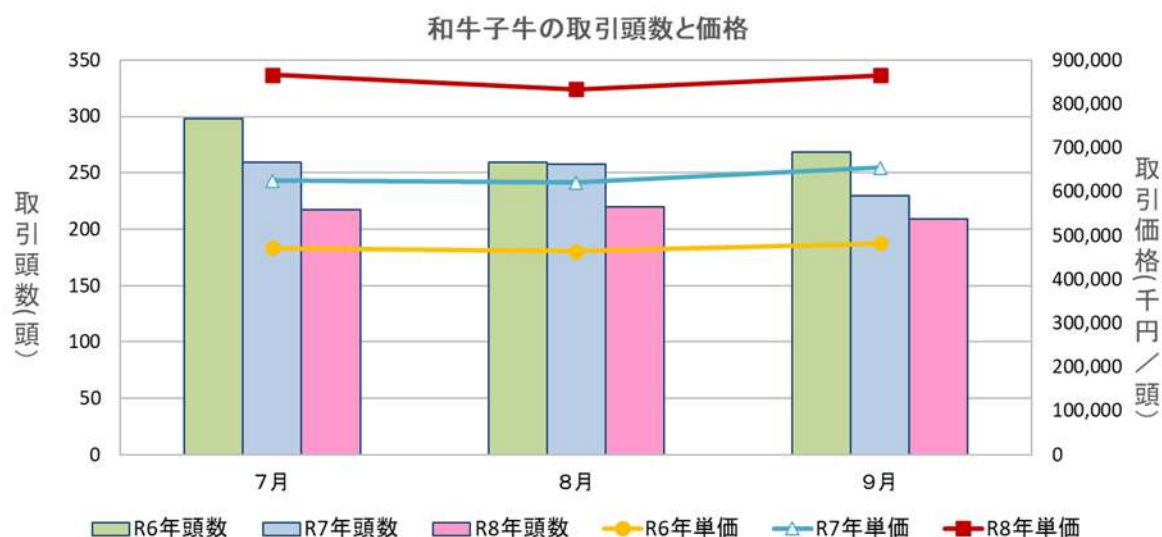
※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。

出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A 4 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、繁殖農家の廃業等により繁殖雌牛が減少傾向にあるため、前年を下回って推移している（前年比 84～91%）。

取引価格は、出荷頭数が少ないため、前年を大きく上回っている（前年比 132～139%）。



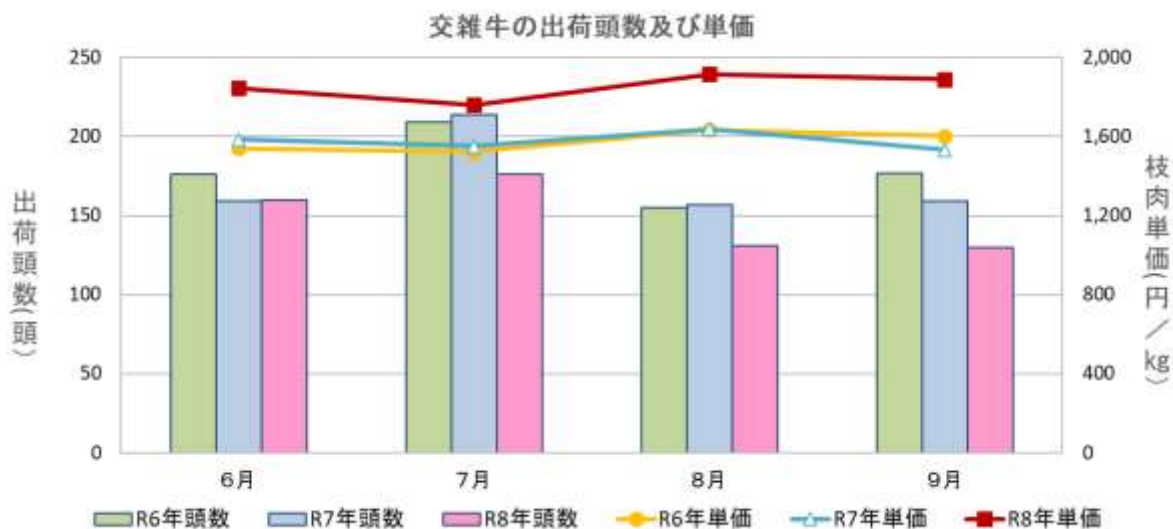
※「肉用子牛取引情報」（独立行政法人農畜産業振興機構）。

直近月は、日本農業新聞市況から引用。

(ウ) 交雑牛

出荷頭数は、前年を下回って推移している（前年比 82～101%）。

枝肉単価は、出荷頭数の減少の影響や和牛肉からの代替需要等により、前年を大きく上回って推移している（前年比 114～123%）。



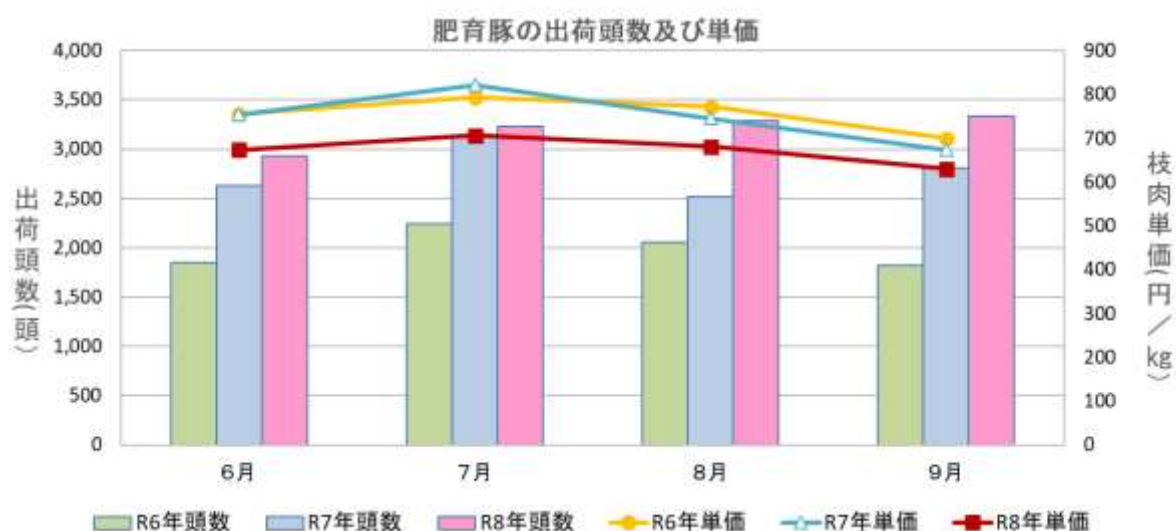
※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。

出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢B3でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(エ) 豚

出荷頭数は、県外からの出荷頭数が増えたことから、引き続き前年を上回って推移している（前年比 103～119%）。

枝肉単価は、輸入量が増えていることなどから、前年を下回って推移している（前年比 86～94%）。

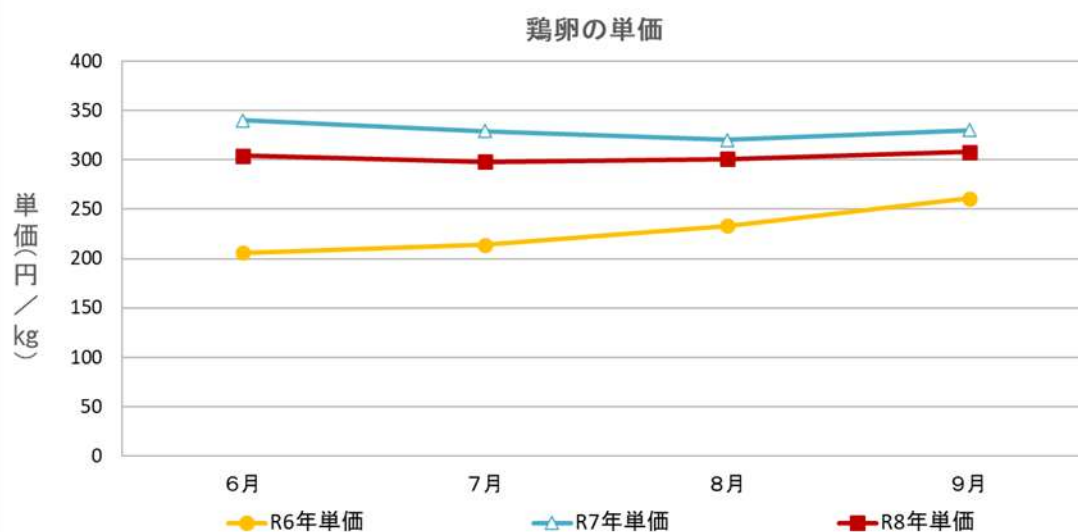


※「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。

出荷頭数・枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

鶏卵は、需要が高い状況が続いているが、高病原性鳥インフルエンザの影響が大きかった昨年に比べ供給量は増加していることから、単価は前年を下回って推移している（前年比 89～94%）。

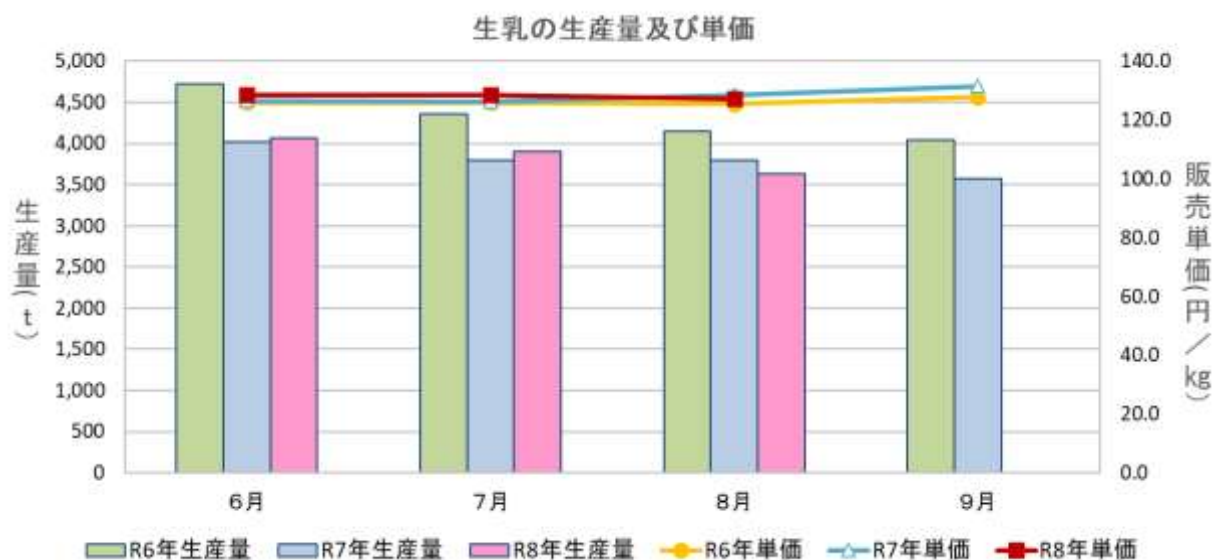


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(カ) 酪農

生乳生産量は、ほぼ前年並みで推移している（前年比 99～102%）

生乳の販売単価についても、ほぼ前年並みに推移している（前年比 96～103%）。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合聞取りで手取り乳価。

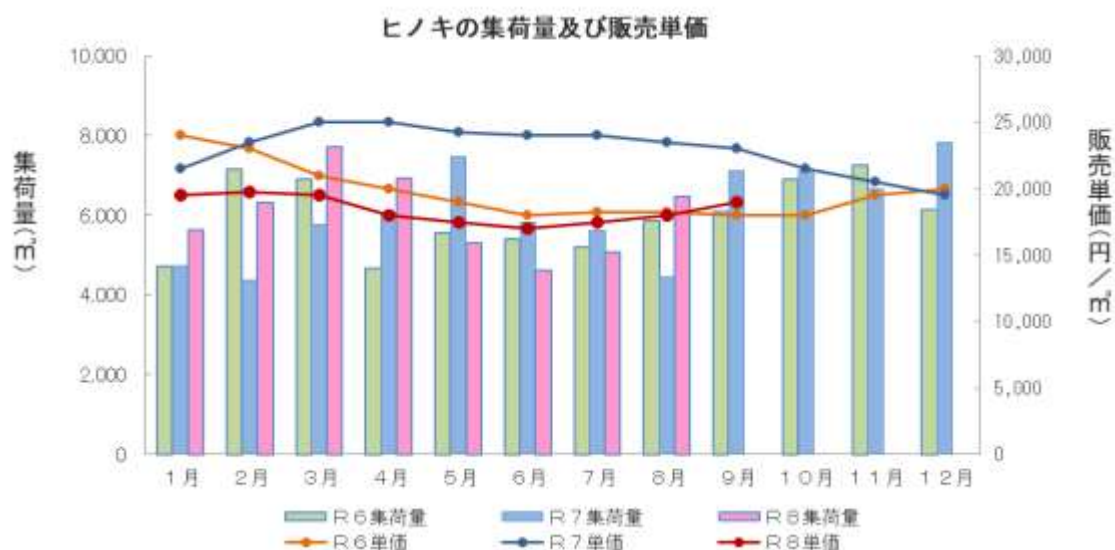
(キ) 飼料等価格

配合飼料の価格は、原料の国際価格の上昇や為替相場等の影響により上昇傾向にある。粗飼料の価格についても、依然として高い水準で推移している。

ウ 林産物

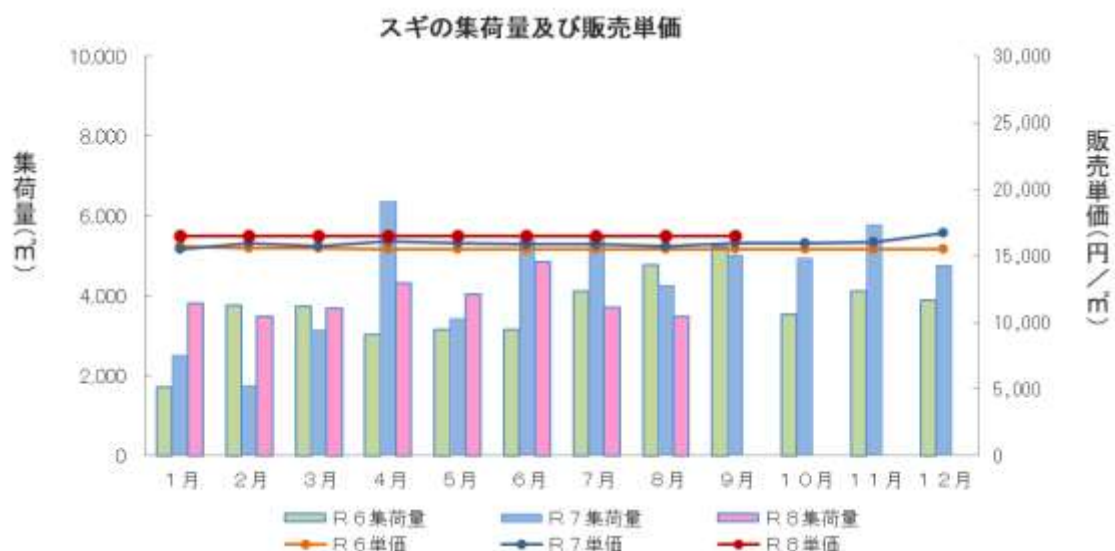
(ア) ヒノキ

集荷量は平年並み、販売単価は前年同期を下回り推移しているものの、引き合いが強まっていることから緩やかな上昇傾向にある。



(イ) スギ

集荷量は、近年の中で特に多かった昨年を除いて平年並み、販売単価も平年並みで推移している。



※ 木材の生産状況として、県内の主要な木材市場に月別の集荷量を聞き取ったもの。

※ ヒノキ・スギの集荷量は、広島県森林組合連合会三次共販所、三原久井共販所、広島林産中市協同組合の合計値。

※ ヒノキの販売単価は、ヒノキの集荷量の多い広島県森林組合連合会三次共販所における 4m末口 14-16 cm（高値）の月平均値、スギの販売単価は、スギの集荷量の多い広島林産中市協同組合における 4m末口 24-28 cm（高値）の月平均値。

エ 水産物

(7) 水温

9月上旬の県内海域 32 点の表層水温は 27.2～30.9℃で、平年差は+1.5～+3.0℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
9 月上旬の水温	28.2～29.3℃	27.2～28.1℃	28.8～30.9℃
平年差	+2.0～+2.6℃	+1.5～+2.3℃	+2.1～+3.0℃

※平年値は平成 3 年～令和 2 年（30 年）の平均

(イ) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 15 品目の取扱数量は、マダイ、カワハギ、アナゴ、サワラ、マアジで平年を上回った。一方で、残る 10 品目では平年を下回った。

b 取扱単価

県内産の取扱単価について、15 品目中 13 品目で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和 8 年 8 月）

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	kg	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	48,531	119	106	820	96	103	22,043	91	139	656	95	107
スズキ	6,179	106	68	1,649	104	132	2,429	157	83	1,291	120	144
カワハギ	3,643	136	36	1,288	121	171	892	160	110	2,108	124	135
タコ	12,502	85	49	2,108	110	144	6,661	85	60	2,091	112	142
クロダイ	2,284	57	44	421	90	104	1,866	57	38	432	86	105
アナゴ	19,978	89	70	2,335	95	117	972	146	113	3,351	116	150
シタビラメ	2,405	141	87	1,398	105	124	669	99	52	1,541	114	134
サワラ	6,800	105	57	1,591	106	146	975	163	116	1,915	112	186
キジハタ	1,377	185	77	2,431	105	98	1,151	218	95	2,308	104	99
カサゴ	480	144	51	1,390	101	140	354	206	55	1,322	108	143
ガザミ	1,936	250	102	1,945	76	92	309	672	60	3,035	112	140
オコゼ	628	118	49	5,176	107	182	223	94	42	4,622	88	159
メバル	828	44	17	3,109	133	163	557	125	31	3,307	130	178
マアジ	31,180	60	50	1,117	147	177	3,313	370	633	1,316	78	87
タチウオ	16,237	401	148	2,227	92	133	2,786	882	83	2,304	99	130

※ 平年値は平成28年～令和 7 年の平均

※ 数量 : 平年比50%以上増

単価 : 平年比20%以上増

※ 数量 : 平年比50%以上減

単価 : 平年比20%以上減

c 煮干共販実績

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ、ちりめん）については、9月末現在、共販数量は平年並みで、金額及び平均単価は平年を上回っている。

広島県煮干共販出荷実績（令和8年9月末現在累計）

区 分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和8年度 （平年比）	1,336 （117%）	2,035,149 （142%）	1,523 （122%）
平 年	1,144	1,433,265	1,253

※平年値は令和3年度～令和7年度の平均（9月末累計）

(7) 養殖状況

a かき養殖

かきの出荷は、平年よりも約1ヶ月遅れの11月2日から順次開始される（令和7年期は10月20日）。

採苗は7～8月にかけて順調に行われ、8月末までに概ね必要量が確保された。

b のり養殖

のりの採苗は、10月5日から行われている（令和7年期は10月9日）。

「乾(ほし)のり」としての出荷は、1月上旬を見込んでいる（令和7年期は1月15日）。